

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M212W301	在宅看護論 (Home Care Nursing)	専門教育科目 統合分野

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	3	前期	木・3, 4	小野光美・三重野英子・岩本祐一・大野夏稀・江藤千晴・阿部世史美 内線:5071 E-mail:mitsumi@

#### 【授業の概要・到達目標】

全ての看護学領域および関連諸科学の授業で学んだ知識を基盤として、療養者が望む住まいでその人らしく健やかに療養生活を続けられるよう地域包括ケアシステムにおいて個別的看護を展開するための基礎的能力を養う。全ての発達段階（小児から高齢者）、様々な健康レベル（健康の維持・回復から安らかな死）にある在宅療養者を支える制度、看護専門職の技術と役割、多職種との連携について、オムニバス形式で学ぶ。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 在宅看護の目的・特徴、対象者、システムを説明する。	○						
2. 訪問看護過程の展開の実際を知り、訪問看護の視点や必要な知識・技術・態度を説明する。	○						
3. 在宅看護のさまざまな対象や場・空間、専門職の活動を知り、対象者の療養生活を支える看護専門職の役割を考え述べる。	○		○				○

#### 【授業の内容】

1, 2	在宅看護の目的、対象、在宅看護のシステム・展開、地域多職種連携
3	在宅療養者を支える制度、在宅看護における倫理（権利保障）
4	在宅療養者とその家族を支える看護（1）訪問看護師による看護実践
5	在宅療養者とその家族を支える看護（2）医療的ケア児に対する看護実践（療養・発達支援）
6	在宅療養者とその家族を支える看護（3）地域で暮らす精神障害者に対する看護実践
7	在宅療養者とその家族を支える看護（4）自宅で最期まで生きるがん患者に対する看護実践
8	在宅療養者とその家族を支える看護（5）認知症ピアサポート活動
9～11	事例検討・発表、在宅看護実習のオリエンテーション

#### 【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	小テスト、学習記録による振り返り	・既修の学習内容を振り返る時間を設け、知識の統合を促進する。 ・学生個々が考え、意見を述べる機会を頻繁に設ける。
B：意見の表現・交換	○	発問、グループ検討	
C：応用志向	○	グループによる事例検討・発表	
D：知識の活用・創造			

#### 【時間外学修の内容と時間の目安】

	講義
準備学修	指定した授業資料や教科書等を用い、次回の学修内容について予習する。適宜、宿題を課す。(11.5h)
事後学修	授業資料、教科書、小テストを用い、授業で学修した内容を復習する。(11h)

#### 【教科書】

・臺有香、石田千絵、山下瑠璃子編者（2022）：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（第7版）、メディカ出版、大阪。

#### 【参考書】

#### 【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3
期末試験	80%	○	○	○
事例検討（グループ検討の過程と成果）	20%	○	○	○

【注意事項】 毎回、学修記録の提出（Moodle アンケート）をもって出席状況を確認する。

【備考】 大学の感染対策方針に基づき、オンライン授業に変更する場合がある。

適時、授業資料や教材をMoodleにアップロードする（アップロード時、メールで通知）。

担当教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>	
教員の実務経験	小野、岩本、大野、阿部（看護師、保健師）、三重野（看護師）、江藤（看護師、助産師）	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	<input type="radio"/>	
教員以外の指導に関わる実務経験者	訪問看護師、 <b>認知症ピアサポーター・認知症希望大使、デイサービス事業所代表・介護支援専門員</b>	
実務経験をいかした教育内容	看護実践の経験に基づき、病院完結型ではなく、療養者とその家族が望む生き方を支えるための知識と技術を理解し、在宅看護に対する展望が描けるよう、講義・演習を行う。	
授業形態	面接授業	